

馬頭最終処分場整備運営事業

審査講評

平成 2 9 年 6 月

馬頭最終処分場 P F I 事業者選定委員会

馬頭最終処分場PFI事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、馬頭最終処分場整備運営事業（以下「本事業」という。）に関して、落札者決定基準（平成28年10月13日公表、同年12月13日修正版公表）に基づき、提案内容の審査を行いましたので、審査結果及び審査講評をここに報告します。

平成29年6月23日

馬頭最終処分場PFI事業者選定委員会
委員長 植田 和男

目次

1	選定委員会の構成	1
2	選定委員会の開催経過	1
3	審査方法	2
4	審査結果	2
	(1) 参加資格審査	2
	(2) 入札書類審査	2
5	審査講評	6
	(1) 性能審査評価の講評	6
	(2) 総評	7
	(参考) 落札者の提案施設概要	8

1 選定委員会の構成

選定委員会の構成は、以下のとおりである。

(委員長及び副委員長を除き五十音順)

区分	氏名	所属・役職等
委員長	植田 和男	NPO 法人日本PFI・PPP協会 理事長
副委員長	佐藤 主光	一橋大学大学院経済学研究科 教授
委員	柿井 一男	宇都宮大学 名誉教授 (元 宇都宮大学大学院工学研究科教授)
委員	高田 純子	公認会計士・税理士
委員	藤吉 秀昭	一般財団法人日本環境衛生センター 副理事長
委員	増田 浩志	宇都宮大学大学院工学研究科 教授
委員	渡部 康男	一般社団法人栃木県経営者協会 地域環境委員会 副委員長

2 選定委員会の開催経過

選定委員会の開催経過は、以下のとおりである。

日程	委員会	主な議題等
平成 28 年 2 月 16 日	第 1 回選定委員会	・実施方針について ・要求水準書(案)について
平成 28 年 7 月 21 日～26 日	第 2 回選定委員会 ※各委員への持ち回り による開催	・特定事業の選定について
平成 28 年 9 月 1 日	第 3 回選定委員会	・入札説明書について ・落札者決定基準について ・審査の進め方について
平成 29 年 5 月 18 日	第 4 回選定委員会	・基礎審査結果について ・提案書の審査方法について ・提案書の審査(ディスカッション)
平成 29 年 6 月 16 日	第 5 回選定委員会	・ヒアリング ・提案審査 ・最優秀提案の選定

※平成 27 年 12 月 14 日、17 日、平成 28 年 1 月 7 日に、選定委員会において馬頭最終処分場計画地現地調査を行った。

3 審査方法

審査は、事業者の参加資格を審査する「参加資格審査」及び、提案内容等を審査する「入札書類審査」に分けて実施した。

「参加資格審査」では、入札参加者の参加資格について、栃木県（以下「県」という。）が入札説明書（平成 28 年 10 月 13 日公表）の入札参加資格要件に基づき審査を行った。

「入札書類審査」においては、県がまず基礎審査を行い、次いで、選定委員会が落札者決定基準に基づき具体的な提案内容の性能審査及び評価を行った。その後、県が入札価格を確認し、それに基づいて選定委員会が価格審査のうえ、最終的に総合評価を行った。なお、審査に際しては、公正を期すため、選定委員会に対しては入札参加者の企業名を伏せて行った。

4 審査結果

(1) 参加資格審査

平成 28 年 12 月 20～22 日に、2 グループから参加表明書（参加資格確認申請書を含む）の提出があり、入札説明書に示す参加資格の要件について審査した結果、いずれのグループも参加資格を有していることを確認し、平成 29 年 1 月 20 日付けで、参加資格の審査結果を県から 2 グループへ通知した。

入札参加資格を確認した入札参加者（入札参加表明時の提出書類の受付順に上欄から表記）

入札参加者	代表企業名
Aグループ (共和化工グループ)	共和化工株式会社 関東支店
Bグループ (クリーンテックグループ)	株式会社クリーンテック

(2) 入札書類審査

ア 基礎審査

県は、基礎審査の対象となった 2 グループの入札書類について、提出書類がすべて入札説明書の指定どおりに揃っていること及び記載された内容が要求水準をすべて満たしていることを確認し、選定委員会に報告した。

イ 性能審査

選定委員会は、落札者決定基準に基づき、入札参加者の企業名を伏せて性能審査を行った。なお、Aグループについては、参加資格要件が満たせなくなったとして入札書類取下届が提出されたことから、性能審査の評価及び価格審査は行わなかった。

性能審査については、以下の 5 段階の基準により評価を行った。性能評価点は、各委員の性能評価点の平均値とし、少数点第 3 位以下を四捨五入した。

評価	判断基準	得点化方法
A	特に優れている	各項目の配点×1.00
B	AとCの中間程度である	各項目の配点×0.75
C	優れている	各項目の配点×0.50
D	CとEの中間程度である	各項目の配点×0.25
E	要求水準を満たす程度である	各項目の配点×0.00

性能審査の結果は、以下のとおりである。

評価項目			配点	Bグループ	
				評価点	小計
1 事業計画に関する事項	①	事業の取組方針及び実施体制	2	0.86	8.22
	②	資金調達及び長期収支の安定性	6	3.86	
	③	リスク管理	2	1.07	
	④	地域経済・地域コミュニティとの関わり方	4	2.43	
2 設計・建設業務に関する事項	①	遮水対策	6	3.21	12.43
	②	浸出水処理施設の性能	6	2.79	
	③	被覆施設	6	3.21	
	④	環境への負荷低減及び自然との調和	4	2.29	
	⑤	配置・動線計画、施工計画	2	0.93	
3 運営・維持管理業務に関する事項	①	施設管理	6	2.36	10.73
	②	埋立計画	6	2.79	
	③	環境保全対策及び環境への負荷低減	4	1.86	
	④	見学者対応・情報発信	2	0.93	
	⑤	営業活動・顧客創出	6	2.79	
4 不法投棄物撤去に関する事項	①	事前調査及び環境対策	2	0.93	3.50
	②	汚染拡散防止対策及び不法投棄物撤去・運搬	6	2.57	
性能評価点			70	34.88	

ウ 価格審査

(ア) 開札

参加資格を有するBグループから提出された入札書に記載された入札価格が予定価格の範囲内であることを県が確認した。

(イ) 審査

a サービス購入料（入札価格）

以下の式により算定して得られた値を価格評価点とした。価格評価点の計算に当たっては、小数点第3位以下を四捨五入した。

$$\text{評価点} = \text{配点（15点）} \times \frac{\text{最低評価価格}}{\text{当該入札参加者の評価価格}}$$

評価価格とは、県の各年度のサービス購入料支払い額を現在価値換算（割引率：1.35%）した金額である。

サービス購入料（入札価格）の価格審査の結果は、以下のとおりである。

	Bグループ
サービス購入料(入札価格)	3,482,000,000 円
評価価格	3,043,597,581 円
評価点	15.00 点

b プロフィットシェアリング（基準単価）

以下の式により算定して得られた値を価格評価点とした。価格評価点の計算に当たっては、小数点第3位以下を四捨五入した。

$$\text{評価点} = \text{配点（15点）} - \frac{\text{当該入札参加者の提案基準単価} - \text{最低基準単価}}{100}$$

また、県への納付割合について、3分の2を下回る割合で提案されたため、上の式により算出した点数に以下の係数を乗じて価格評価点を算定した。価格評価点の計算に当たっては、少数点第3位以下を四捨五入した。

$$\text{係数} = \frac{\text{提案納付割合}}{2/3}$$

	Bグループ
提案基準単価	16,200 円/t
提案納付割合	1/4
評価点	5.63 点

c 価格評価点

価格審査の結果は、以下のとおりである。

	Bグループ
サービス購入料(入札価格)	15.00 点
プロフィットシェアリング(基準単価)	5.63 点
価格評価点	20.63 点

エ 総合評価点の算出及び最優秀提案の選定

選定委員会において、性能評価点と価格評価点を合計して総合評価点を算出した。

	Bグループ
性能評価点	34.88 点
価格評価点	20.63 点
総合評価点	55.51 点

選定委員会は、Bグループの提案を最優秀提案として選定した。

5 審査講評

(1) 性能審査評価の講評（Bグループ）

ア 事業計画に関する事項

評価項目	審査講評
①事業の取組方針及び実施体制	・同種施設の設計、建設、運営実績を有する企業による体制が評価できる提案であった。
②資金調達及び長期収支の安定性	・複数の金融機関から融資確約書等が提出されており、資金調達の確実性が高く評価できる提案であった。 ・また、処理手数料単価が下振れした場合の対応策については、長期収支の安定性が評価できる提案であった。
③リスク管理	・本事業の特性を踏まえた要求水準を上回る保険による対応が評価できる提案であった。
④地域経済・地域コミュニティとの関わり方	・地元雇用、県内企業の活用、県産材の活用等の積極的な内容が高く評価できる提案であった。

イ 設計・建設業務に関する事項

評価項目	審査講評
①遮水対策	・中間柱周囲の遮水シート構造や浸出水集排水管の貫通部等について、遮水機能の連続性を高める構造が評価できる提案であった。 ・また、遮水機能のモニタリング方法について、遮水シートの損傷箇所の検知精度を、より高める内容が評価できる提案であった。
②浸出水処理施設の性能	・浸出水処理施設の処理システムについて、原水の濃度、温度等の変動に対する長期安定稼働を目指した積極的な内容が評価できる提案であった。
③被覆施設	・中間柱の本数削減など、埋立作業性を考慮した施設設計が評価できる提案であった。 ・また、構造、材質について、要求水準を上回る耐震性が評価できる提案であった。
④環境への負荷低減及び自然との調和	・被覆施設における多くの自然採光やLED照明、雨水利用を提案するなど、環境への負荷低減対策を考慮した施設設計が評価できる提案であった。
⑤配置・動線計画、施工計画	・見学者等の安全性・利便性を考慮した動線計画が評価できる提案であった。

ウ 運営・維持管理業務に関する事項

評価項目	審査講評
①施設管理	・施設の運営・維持管理を行う従業員に対する教育を重視する内容が評価できる提案であった。 ・また、万が一の地下水質異常時の緊急時対応や施設故障時の安定稼働に向けたバックアップ体制が評価できる提案であった。
②埋立計画	・埋立不適物等の搬入管理手法について、契約段階、搬入前段階、展開検査段階、搬入後段階の各段階に応じた受入判定フローを提案するなど、厳密な搬入管理手法が評価できる提案であった。

③環境保全対策及び環境への負荷低減	・環境モニタリングにおける自主基準、測定項目及び測定頻度について、要求水準を上回る内容が評価できる提案であった。
④見学者対応・情報発信	・見学ホールや埋立施設見学デッキなど、見学者に対する配慮が評価できる提案であった。
⑤営業活動・顧客創出	・代表企業が有する営業ネットワークを活用し、代表企業グループと連携した営業活動を行うことが評価できる提案であった。 ・また、本施設の災害時対応として、代表企業グループが有する他施設で処理代行し、排出事業者の安定的な事業活動を支える内容が評価できる提案であった。

エ 不法投棄物撤去に関する事項

評価項目	審査講評
①事前調査及び環境対策	・設計企業が有する同種業務実績を踏まえた詳細なボーリング調査等の事前調査手法が評価できる提案であった。
②汚染拡散防止対策及び不法投棄物撤去・運搬	・汚染拡散を防止するための対策工法について、要求水準を上回る鉛直遮水工法が評価できる提案であった。

(2) 総評

選定委員会は、あらかじめ公表した落札者決定基準に基づき、厳正かつ公正に審査を行った結果、企業グループ各社の実績を基に創意工夫が盛り込まれたBグループの提案を最優秀提案として選定した。

今後、Bグループは県と事業契約を締結し、長期間にわたり事業が実施されることとなるが、提案された内容を確実に履行するとともに、さらなる安全性の向上に尽力されるよう期待するところである。そのうえで、本事業をさらに充実したものとするため、Bグループに対しては、以下の諸点について十分配慮していただくよう期待したい。

- 特別目的会社（SPC）と構成企業のリスク管理に係る契約上での明確化について
- 客観的なセルフモニタリングの実施体制について
- 廃棄物処理分野で活躍できる地元人材の育成への配慮について

(参考) 落札者の提案施設概要

※以下は、提案資料として提出されたものであり、実施設計とは異なる場合があります。

施設概要		内容
埋立面積		48,312m ³
埋立容量		602,530m ³
遮水工	遮水構造	二重遮水シート、ベントナイト砕石等
	漏水検知システム	電気式(電位差測定)
被覆施設	屋根面積	50,175 m ² (幅 180.0m×奥行き 278.75m)
	柱構造	中間柱:CFT構造(コンクリート充填鋼管構造) 端部柱:S構造(鉄骨造)
	梁構造	トラス構造
浸出水処理施設	処理能力	100m ³ /日
	処理方式	アルカリ凝集沈殿処理+生物処理+凝集膜分離+高度処理+循環再利用

【外觀透視図（鳥瞰）】



【内観透視図（埋立地）】

